

# 町医者だより

平成19年05月号

＜発行・お問合せ先＞

おおわだ内科呼吸器科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポール改札口)

1分ミスタードーナツ並び

スーパーつるかめ(旧フレック)2階

電話047-379-6661

おおわだ  
内科  
呼吸器科

## 喘息の吸入療法について

喘息の小中学生が増加している、との新聞報道が先日もありました。今月は喘息の治療における吸入療法についてです。

### 喘息の特徴

外来でもお話していますが、喘息には2つの特徴があります。気管の内腔が狭くなることによって息をはきにくくなり、ゼイゼイしたり息切れを感じたりします。狭くなった内腔が元に戻ると症状がおさまります。これを「可逆性のある気流制限」と言います。気管が狭くなることによって生じる症状を我々は「喘息発作」と呼んでいます。もう一つの特徴はホコリや冷暖房の風、運動後などで出やすい咳で、「(非特異的な)気道過敏」といいます。

### 喘息の治療は吸入薬が主体

喘息はアレルギーが関与する慢性的な気道の炎症であることが分かり、ここ10年治療法が大きく変わりました。それまでは喘息発作の時にネブライザーやスプレー式吸入器を使用したり、点滴を行なった治療が中心でしたが、現在は発作がなくても毎日吸入ステロイドと場合によっては12時間有効な長期作用型 $\beta_2$ 気管支拡張薬(LABAといいます)のセレベント吸入やホクナリンテープを併用し長期的に喘息を管理するようになりました。吸入ステロイドは成人のみならず小児喘息や妊婦さんにも使用しています。吸入ステロイドの導入によって喘息による欠勤・欠席や入院が減少し、さらには喘息死が著明に減少しました。妊婦を含む成人では安全な使用法が確立されています。小児での使用は用量設定に検証の余地があるものの安全性が証明されてきています。

### さまざまな吸入器具があります

吸入方法として昔から使用してきたのがネブライザーです。オムロンからメッシュ式も発売されていますが、ジェットネブライザー(またはコンプレッサー式と呼ばれることもあります)を使用する事をお勧めしています。と言うのもメッシュ式は薬剤によっては目詰まりを起こすことがあるからです。2歳以下のお子さんではネブライザー吸入が中心です。購入を考えている方は1分間に噴霧できる量のできるだけ大きな製品を買われる方が良いでしょう。スプレー式吸入器は正式には定量噴霧吸入器(MDI)といいます。吸入ステロイドのフルタイドやパルミコートのように粉を自分の力で吸い込んで使用する物をドライパウダー吸入器(DPI)といいます。これらの製品を患者さんの状況に合わせて使い分けています。

### 気管支拡張剤の吸入はネブライザーもスプレー式吸入器も効果は同じ

2005年のACCPガイドラインにも明記されていますが、メプチンやサルタノール(吸入液ではベネトリン)などの短時間作用性 $\beta_2$ 気管支拡張薬(SABAといいます)はネブライザー吸入でもスプレー式吸入器(MDI)でも効き目は同じです。ただし、スプレー式吸入器(MDI)には必ず吸入補助器(インスパイアー・イースやボルマチック)を併用してください。

### 新しい吸入薬が発売されます

もうすぐ、プロドラッグを用いた新しい吸入ステロイド(商品名オルベスコ)とフルタイドとセレベントの合剤(商品名アドエアー)が使用できるようになります。喘息治療の吸入療法の選択肢がますます増えます。